親しく正しく和かに
当山先々代三吉日照上人の提唱による当山スローガンです
揮毫＝大本山本興寺御閑士大平日晋上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。

寺楽寿（てらす）

No.38
令和元年９月１日発行

本覺山　妙壽寺〈法華宗（本門流）〉
〒157-0061　東京都世田谷区北烏山５-15-1
電話 03-3308-1251　FAX.03-3308-7427
ホームページ　http://myojyuji.or.jp

無縁社会と寺縁（じえん）その34

冷夏猛暑の今年の夏前6月、忘れ得ぬ二つの事がありました。

6月中旬、日蓮聖人門下連合会が宗祖聖誕八〇〇年記念として、法華経漢訳の鳩摩羅什（くまらじゅう）三蔵法師報恩法要に参加参拝したことであります。盛大裡に奉修された草堂寺は、中国陝西省西安市（元の長安の都）郊外にあり、ここは三十数年前に入谷鬼子母神真源寺（住職蓮池光洋上人）団参で訪れており、その街並みの激変ぶりは目を疑うばかりでした。とりわけ大慈恩寺大雁塔七層より見た西安郊外の林立するマンション群には圧倒されるとともに、中にはゴーストタウンもあると聞き、中国社会の光と影を垣間見たような気がしました。

続いて、6月末日の佳日、大塚顕晋（けんしん・俗名 晋一）君の得度式が奉修されました。安田顕実・園田顕敦両師から11人目の徒弟となりますが、最初の頃は特段の儀式法要はなかったと思います。式当日、ご参列の親族、総代関係各位には差定（式次第）をご説明し、その中で例えば「辞親とは、出家は即ち親元を辞去する意」などとお伝えし、法要後に、よくわかりましたと仰っていただきました。

人一人が出家得度する。これは、深い仏縁としか申し上げようのない事でありましょう。大塚君父方祖母は当山先々代日照上人の四女であり、当人は日照上人曾孫に当たります。

今後とも、僧侶として法華宗の教えをしっかり学び、精進して檀信徒の方々のために、そして妙壽寺護持に邁進していただくことを切に願う次第であります。

鴉　鵠

大塚顕晋師得度式 剃髪（裏面参照）

猿江別院
画家・野中光正展&ギャラリートーク

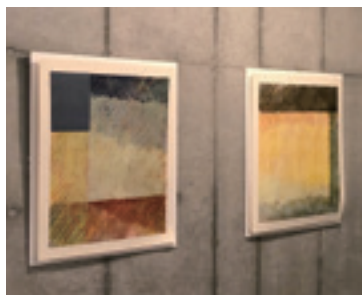
7月12日～28日（金土日のみ開催）、猿江別院において木版画家・野中光正展が開催されました。本展は、1949年東京都生まれの野中氏が21歳の頃に描いた風景画を中心に展示、特に1970年代の本所深川界隈の風景は、当時を知る人にとって、懐かしさを覚えるようでした。

また、19日には野中氏とキュレーター佐藤仁美氏、建築家（猿江別院の設計・監修）三浦清史先生によるギャラリートークが行われました。

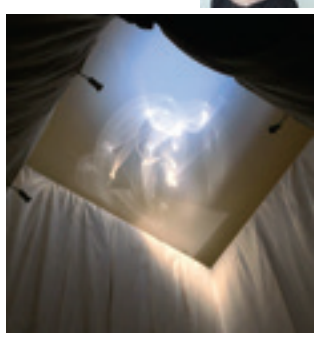
キュレーターを務めた佐藤氏は、猿江別院の天蓋に自然光と反射板を使って様々な光の表情が見られる作品を設置しており、同作品は世界的に有名なデザインのブロンズ賞「2019 ASIA DESIGN PRIZE」を今年3月に受賞されました。

佐藤氏は1989年生まれ、武蔵野美術大学建築学科卒業、同大学大学院基礎デザイン学コースを修了後、2016年ロンドンに留学。主に光や色を使った体験型のインスタレーション作品を制作しています。

野中光正氏と展示作品



佐藤仁美氏と受賞作品の猿江別院天蓋



寺日記（てらにっき）

●5月17日　先天堂角塔婆入魂式
（公財）東洋学林高尾山先天堂にて当住上人揮毫の角塔婆の入魂法要が修行されました。

●5月17日・18日　相沢家通夜・葬儀
当住久美夫人友人相沢美佳さん夫君の一ツ橋大学名誉教授相沢英孝先生の葬儀が当住上人御導師にて代々幡斎場で奉修され、300名余の会葬者が故人を偲びました。

●6月1日　隈研吾教授最終講義（内田先生講演会）
東京大学本郷安田講堂において、同大教授隅研吾先生の連続最終講義第3回、当山総代内田祥哉先生の講演および鼎談が行われ、当住上人・大坪顕孝師が聴講しました。

●6月3日　棚経会（7月お盆棚経打ち合わせ）

●6月7日　村松施音（しおん）嬢結婚式　於ハワイ・オアフ島　当住夫妻参席

●6月10日～14日　日蓮聖人門下連合会、中国西安草堂寺団参
法要には二瓶海照総長名代として当住上人が副導師を務めました。（写真下▲印当住上人）

●6月17日　丸山ヤス子先生ちりめん細工教室
ちりめん細工作家丸山ヤス子先生による「ちりめん細工教室」を鍋島客殿にて開催しました。お盆のお供えのお飾りを作る教室で、参加者の田上素子さんは「手作りの素敵なお飾りで、ご先祖様もさぞ喜ぶことでしょう」と仕上がり品を手に笑みを浮かべていました。

●6月18日　故相沢英之先生お別れ会　於東京プリンスホテル

●6月21日　千鳥ヶ淵戦没者墓苑顕彰式
千鳥ヶ淵戦没者墓苑創建60周年にあたり、当墓苑において（公財）千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会より法華宗（本門流）に対して感謝状の贈呈式が挙行されました。当日は宗務総長二瓶海照台下、総務部長当住上人が出席しました。

●6月23日　朝霞教会先代第33回忌
メモリアルガーデン朝霞において当住上人御導師により朝霞教会開基相沢信龍上人（信解院日聰上人、現住相沢龍正上人師父）第三十三回忌法要が粛やかに厳修されました。

●6月26日　大塚顕晋師得度式（裏面参照）

●6月28日　桑港日蓮教会石田和麿会長令嬢ジュディ華子さんご家族来山

●7月中旬～15日　棚経

●7月13日　平島先生正隆会特別講義開催
正隆会恒例の興隆学林教授・平島盛龍先生による講義「経を読む時の心構えと本堂伽藍の解説」に10余名が参加しました。

●7月16日　当山孟蘭盆会法要
例年にない冷夏のなか、新盆ご家族80余名、合わせて300余名のお参りをいただき、孟蘭盆会法要が奉修されました。

●8月14日　第54回戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典　主催新日本宗教青年会連盟
於国立千鳥ヶ淵戦没者苑
終戦戦没者追善唱題行
大坪顕孝師主唱

●8月15日

●8月18日　瑞光寺先代第三回忌法要
今市市瑞光寺において、下谷感応寺住職福島典雄上人御導師により、同寺第二世高村法顕上人（常祥院日倞上人）第三回忌法要が奉修されました。

鵠沼・晴明庵　7月23日　梅雨の僅かな晴れ間の中、宗務院渡部憲亮上人ご法話の後、20余名にて孟蘭盆会法要、無縁塔供養を唱題奉修いたしました。

8月19日　伊東海施餓鬼法要・俎岩海上供養

桑港・日蓮教会　8月4日　爽やかな夏空のもと、お盆施餓鬼法要が30余名の参加を得て厳修されました。

猿江・猿江別院　6月21日　第9回写経会

当住上人の宗務院 DIARY

5/20,29　責任役員会議
5/21-23　第74次定期宗会
5/29,30　全国宗務所長会
6/24　教学研究所主任会議
6/28　学林前期閉講式、学務協
7/3,4　宗門史編纂委員会

■(公財)全日本仏教会＝全仏
5/14　全仏理事会
■(公財)日本宗教連盟＝日宗連
5/31　日本宗教連盟理事会
6/27　日宗連理事評議員会

正隆会 秋のウオーキング＜日帰り＞ 募集

城下町千葉県佐倉市 鍋島客殿ゆかりの旧堀田邸&市内散策

10月10日(木)　8：40～18：15（予定）

▶行程　新宿駅西口・新宿センタービル前　8：40 集合⇒ JR 錦糸町駅周辺 9：20 集合⇒ 首都高・南関東道 ⇒ 四街道 IC ⇒ 国立歴史民俗博物館 見学 10:30～11:45 ⇒ 佐倉・秋田屋 昼食 12:00～13:00 ⇒ 佐倉市駐車場下車 13:10 着 ⇒ 徒歩 10 分 ⇒ 佐倉市武家屋敷・旧河原家住宅 見学 13:20～14:10 ⇒ 徒歩約 20 分 ⇒ 旧堀田邸・さくら庭園 見学 14:30～15:20 ⇒ 徒歩約 20 分 ⇒ 佐倉順天堂記念館 見学 15:40～16:30 バス乗車 ⇒ 佐倉 IC ⇒ 東関東道・首都高⇒ JR 錦糸町駅 17:30 ⇒ 新宿駅西口 18:15 着予定

参加費：8,000 円　＊お申込み・詳細は別紙をご覧ください

一之輔落語×竹灯籠能「羽衣」

日程：令和元年 11 月 9 日（土）
時間：13：30（開場 13 時）～ 17：20 頃
会場：妙壽寺本堂

第一部　一之輔独演会 / 春風亭一之輔
第二部　座談会:落語家（一之輔）×能楽師（浅見慈一）×僧侶（三吉住職）
ミニレクチャー　「羽衣」の見どころ / 小早川泰輝
第三部　竹灯籠能「羽衣」/ 浅見慈一 他

9月1日(日)　よりチケット販売開始（予定）

電話予約　カンフェティチケットセンター
0120-240-540
（受付時間　平日 10：00～18：00）

一般 /6,500 円
学生 /4,000 円
主催：代々木果迢会

※チケットは妙壽寺でも受付ております。

今後の予定　予告

● 9 月 23 日(月・祝)	秋季彼岸会合同法要	午前 11 時　午後 2 時
● 11 月 3 日(日・祝)	宗祖第七三八遠忌御会式	午後 2 時
● 1 月 1 日(水・祝)	元旦国禱会	

正隆会 【SHORYU-kai】

午後 2 時開催

月例講ご案内

当山では、毎月第 2 土曜日午後 2 時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回 1 時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

9 月 14 日(土)	勉強会「日蓮紀行」拝読 5
10 月 10 日(木)	課外活動「秋のウォーク」
11 月 16 日(土)	写経会
12 月 14 日(土)	三千遍唱題会・勉強会「日蓮紀行」拝読 6
1 月 11 日(土)	初題目・勉強会「日蓮紀行」拝読 7

得度式―大塚顕晋師

去る6月26日、当山御宝前において大塚顕晋（けんしん・晋一）師得度式が厳かに奉修されました。
同師は当住上人の従兄、大塚憲一・とし子夫妻の長男であり、当山先々代大僧正日照上人の曾孫となります。今後の精進を期待するところであります。

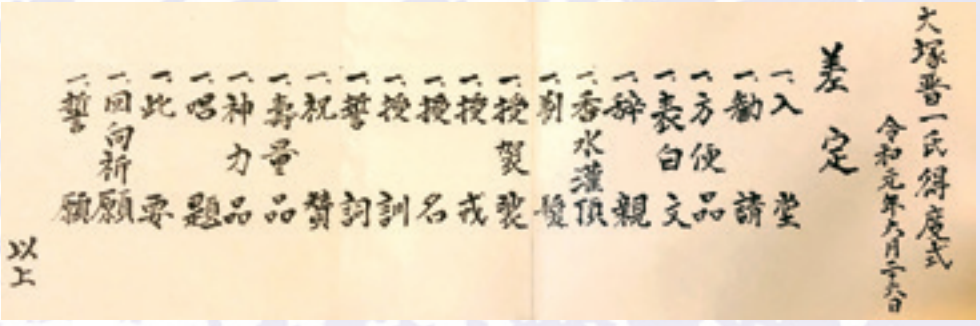
生い立ち、妙壽寺とのご縁

大塚 顕晋

妙壽寺と大塚家とのご縁

私は昭和52年10月18日に埼玉県大宮市（現さいたま市）で生まれました。父は出版社に勤めており、一般的なサラリーマンの家庭で育ちました。

父と父の姉（佐々木明乗上人和子夫人）が当住上人（三吉廣明住職）の従姉弟という親戚関係であり、祖母がとても信仰心が強い方でしたので、幼少から小学校までは毎月家族で妙壽寺にお墓参りに来ていました。


大塚晋一氏得度式
令和元年六月二十六日
差定
一入堂
一勧請
一方便品
一表白文
一献親
一香水灌頂
一別授製
一授戒
一授名
一授訓
一誓願
一祝賛
一寿量品
一神力品
一嘱累
一此品題
一回向祈願
一誓願
以上

そのような縁で、当住上人を始め妙壽寺の皆様にはとてもかわいがって頂きました。

中学、高校に進学すると部活動、生徒会活動が忙しくなり、家族で妙壽寺にお墓参りに行く機会も減ってしまいましたが、大学に進学後は父が妙壽寺の世話人を務めている縁で7月の盂蘭盆施餓鬼法要、11月の御会式のお弁当作り、春季と秋季の牡丹餅、おはぎをお参りに来られるお檀家に振舞うお手伝いをさせて頂くようになりました。

各行事共に1日で600～700人位のお檀家がお参りに来られ、目が回るほど忙しく、子供の頃にはわからなかった妙壽寺の忙しさに驚きました。

会社勤務時代で学んだこと

私は食品全般に興味があったので、日本大学生物資源学部食品経済学科に進学し、食品の流通等を学ぶ一方、旅行業界にも興味があり、旅行会社で添乗員の資格を取得して、勉学の傍ら4年間添乗員のアルバイトをしました。

旅行会社の添乗員という仕事は、接客業の中でも特に旅行というお客様の満足度の期待値が高く、天候や道路の渋滞等の自然条件や不可抗力的な要素に左右されやすく、自分の落ち度でなくてもお客様からのクレームやお叱りを頂くこともあり、学生ながらに社会の厳しさを学びました。

大学を卒業後は旅行会社への就職も考えましたが、自分の関わる仕事を通じて人を幸せにし、社会貢献が出来るような仕事がしたいと思い、「お客様に愛される新たな価値を創造することで、社会に貢献し、社員が誇りを持てる価値創造企業を目指す」ということを企業理念としている㈱グレープストーンに就職しました。

㈱グレープストーンは「東京ばな奈」が一番メイン人気商品の菓子の製造、小売りの会社で、私が就職した当時は「東京ばな奈」が東京で一番人気のお土産商品として売上が大きく伸びている時であり、社内でも花形の部署である羽田空港の店舗に販売員として配属されました。

羽田空港は場所柄、早朝6時から勤務する日もあり、連休や年末年始等の繁忙期の期間は早朝から閉店までお客様が殆ど途切れないくらい忙しい売場で、体力的にも精神的にもきついこともあり非常に大変な日々でしたが、上司や先輩に恵まれ、忙しい中でも目の前の一人一人のお客様に向き合い、それぞれのお客様の気持ちを考えて接客をしなさいと徹底的に叩き込まれました。

その時に学んだことがその後の仕事や自分自身の人生の価値観に大きく影響していると思います。

羽田空港での販売の仕事は様々な大切なことを学ばせて頂いたのですが、一方で悩みを抱えていました。

今思うと贅沢な悩みなのですが、当時は東京ばな奈がとても人気商品であり、実際は殆どお客様に商品の紹介やおすすめをせずとも毎日当たり前のように売れていました。その様な状況で羽田空港での販売の仕事における自分の存在価値はあるのかと悩み始めました。

もっと自分にしかできない仕事をしたいと思い、そのことを販売の責任者をされていた社長の奥様に相談させて頂き、営業の部門に異動しました。

営業部門の上司は東京ばな奈の販路を羽田空港、東京駅等と大きなマーケットに次々と広げ、東京を代表する土産商品に育てた当時の専務で、入社3年目にしていきなり経営者の直接下のポジションで仕事をすることになりました。

専務からは営業の仕事の「いろは」だけでなく、販売職と同様に常にお客様の立場に立った考えを持ち続ける重要さ、取引先だけではない様々な人間関係の構築、常に新しい情報を収集することの大切さ、更には経営者としての視点からの考え方を教えて頂きました。

その後、専務のような経営者として成功したいという夢を持ちました。旅行で訪れた高松で食べた讃岐うどんのおいしさに感動し、讃岐うどんが全国的にブームになりかけていた時に修行をして店をオープンさせる目標を持ちました。

しかしながら、両親に絶対に失敗するからやめておけと猛反対をされ、様々な方に相談し、うどん屋を経営するための勉強をしましたが、現実は厳しく、自分の考えの甘さを思い知らされました。再度、自分の人生を見つめ直し、菓子業界の中で更に営業の仕事だけではなく、商品やブランドの企画、開発を自分自身でトータル的に手掛けていきたいと思い、それを叶えるためには会社の規模が大きくなっている同社では難しいため退職し、自分の希望の職種の求人を行っていた埼玉にある三州製菓㈱という米菓メーカー、その後、静岡にある㈱たこ満という和洋菓子店にお世話になり営業職だけではなく、商品企画、開発、店舗の開発、立ち上げ、市場開拓と幅広い分野で仕事をさせて頂き、ある程度の実績も残すこともできました。

得度を決意するまで

その様な日々の中、静岡の会社に向かう途中、東京駅からのこだま号のホームで当住上人と久美夫人に偶然お会いしました。

そのこだまの車内で、お二人から日照上人の曾孫として今後、妙壽寺を盛り立て、将来的には住職の後継候補も含めて前向きに検討して欲しいとのお話でした。その時は自分の器量で対応できる自信が無かったのでお断りをさせて頂きました。

しかしながら、自分を必要として下さる当住上人と久美夫人のお気持ちは大変嬉しく、もっと人として成長していつか妙壽寺のお役に立ちたいと思いました。

その後、勤めていた㈱たこ満の平松社長から沖縄のグループ会社の社長を受けてもらえないかと打診を受け、その際、平松社長にはとてもありがたいお話を頂いたと感謝する半面、妙壽寺の今後の後継候補のお話が気にかかり、正直に平松社長に今後の自分の人生について相談してみました。

平松社長は私の日々の仕事ぶり、性格を評価して下さり「お寺を継いでいくということは誰にでもできるものではない。大塚さんの性格、人柄はお坊さんにはピッタリだと思う。大塚さんには出来ると私は思う。沖縄の会社の社長を受けてもらう話は忘れてほしい。これからも私の気持ちとしてはうちの会社で引き続き働いてもらいたいけれども、お寺とお檀家さんの未来のことを考えると大塚さんがそちらを継がないと駄目だよ！」と背中を押して下さいました。

平松社長はご自分の菩提寺の檀家役員を務めておられ、そちらのご住職を日々見ておられるのでお寺のことはよく理解されていて、私の相談にご自分の会社のことや気持ちよりも今後の妙壽寺のことを一番に考えて下さいました。

平松社長のお気持ちはとても嬉しかったです。妻にも相談して、大変ありがたいことに自分が決めた決断であればそれについてきてくれるということになりました。

更に私と妻の両親にも相談して、自分の気持ちを理解して頂きましたので得度をすることを決意しました。

得度式は大勢の総代、来賓、職員の皆様にご参列、祝福して頂き大変嬉しかったです。今後、皆様のご期待に沿えるように一日も早く一人前の僧侶になれるように修行に励み、また今までお世話になってきた方々に恩返しができるように、人として成長もしていきたいと思います。